

第118回九州医師会総会・医学会 第6分科会 産業医学会学会誌  
「生活記録表を用いたメンタルヘルス不調者の復職支援  
～主治医と産業医の連携ツールを交えて～」

梶木繁之<sup>1)2)</sup>

- 1) 株式会社 産業保健コンサルティング アルク
- 2) 産業医科大学 産業生態科学研究所 産業保健経営学

国はこれまでに多くのメンタルヘルス対策に関する指針を発行している。このうち、2006年に出された「労働者の心の健康の保持増進のための指針」には、事業者が取り組むべきメンタルヘルス対策の概要が詳細されておりまた、2004年に出された（2009年に改定）「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」には、メンタルヘルス不調者の復職時の支援に必要なポイントなどが完結にまとめられている。

～職場復帰判断チェック項目～（一部）

- 本人に職場復帰の意思がある
- 主治医より就業可能の診断書が出ている
- 治療が必要な場合、治療の継続が可能であることを確認できている
- 日常生活に支障がない
- 生活リズムが出勤時同様のリズムで安定している など

産業医による復職時の面談ではこれらの事項を丁寧に確認し、必要に応じて主治医とも連携することが求める。しかし、産業医を専門としない医師（主に実地医家として日常診療を行なっている嘱託産業医など）にとって、これらの事項を効率的かつ網羅的に確認することは容易ではない。そこで今回の研修会では、メンタルヘルス不調により休職した労働者が、復職に向けた準備をスムーズに行えているかを確認できるツール「生活記録表」を用いた、産業医の復職面談の手法とともに、主治医との連携を可能にする「診療情報提供依頼書作成マニュアル」についても紹介する。

参考情報：

- ・「労働者の心の健康保持増進のための指針」：平成18年
- ・「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」：平成21年（改訂）
- ・平成26～28年度労災疾病臨床研究事業「メンタルヘルス不調による休職者に対する科学的根拠に基づく新しい支援方策の開発」総合分担研究報告書：生活記録表を使用した復職支援の標準的方法の開発および効果評価（p49-79）
- ・大河原 眞，梶木 繁之，楠本 朗 *et al.* 精神科主治医からの情報提供を充実させるために産業医が依頼文書に記載すべき要素の検討. 産業衛生学雑誌. 2018; 60(1):1-14.